家族更正

eel

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
家族更正

【Ｎコード】
Ｎ７３５４Ｖ

【作者名】
ｅｅｌ

【あらすじ】
「あんた、このままでいいの？」
ビクッ震える息子を前に、自然とため息が漏れた・・・

読者のトラウマを抉る。恐怖のシリーズ
作者からのお願い
１、絶対にウツ状態では読まないでください　２、二人以上では絶対に読まないでください　３、フィクションと強く自覚してください　以上の３つを守れない方は・・・フフフ

母から息子へ（前書き）

・・・警告・・・

本当に怖いです。引き返すなら今しかありません。ご注意を・・・

母から息子へ

ーーー岩井家の受難ーーー

「あんた、このままでいいの？」
ビクッ震える息子を前に、自然とため息が漏れた・・・

事の起こりは先日のこと、息子の部屋を掃除しに行ったときのことだ。
いつものように、部屋のものを動かさないよう慎重に掃除機を掛け、布団を干す。
今年２９歳になる息子の部屋は、まるでゴミの山だ。
カバーのかかっている本の中には、何のアニメか、かわいらしい女の子が躍っている。
・・・ふう・・・
息子は今、近所のスーパーのバイトに行っている。
３０までは・・・そう思って今年まで好き放題させてきた・・・
しかし。
一向に変化の見せない息子には、もはや失望しか浮かばない・・・
私が、今の夫と出会ったのが２１歳だったのに対し、息子は彼女（ガールフレンド）はおろか、男友達（ボーイフレンド）すら家に連れてきたことがない。
・・・もうあれね。あたしが死ぬ時に、現実に還ってもらうしかないんだわ・・・
そう思って掃除の続きをする。

ドンッ

「あらやだ」・・・お尻がパソコンに当たってしまったらしい。
はずみでスイッチが入る。

「やだわ、年々大きくなっちゃって」
若いころは、大きな胸、大きなお尻に憧れたが、今となっては垂れない様に維持するのが面倒なだけの代物だ。
・・・パソコンの画面が映ったようだ・・・
「なに・・これ・・・」
そこには・・・明らかに１０歳未満と思われる女の子に対し、犯（イタズラ）している絵が映っていた・・・

・・・ふう・・・
もう一度大きなため息をついた。今のままでも十分にまずいと思うのに、「幼女誘拐」「拉致監禁」なんて・・・死んだおばあちゃんに申し訳が立たない・・・
「このままでいいなんて・・・思ってねぇよ・・・」
ようやく口を開いたと思ったら、いつもの文句。
その、あたしに負けないビールサーバー（びあだる）の体を揺らして、そうのたまう。
「そう、じゃあ、どうすればいいのか。これからどうするのか、あたしに聞かせてほしいの」
・・・そう、犯罪者にだけはなって欲しくない。私の思いはそれだけだ・・・
その暑苦しい体をこちらに寄せて・・・言う。
「今考えてんだ」
・・・何年考え続ければ答えが出るのだろう・・・
答えなんてとっくに見失ってしまっている。そんなもの、今の高校生でも見抜けるだろう。
「じゃあ、どうすればいいのか。一緒に考えましょ？」そう言うと、息子は
「一緒に考えるってなんだよ！！俺はガキじゃねぇ！！」
・・・どの口が言うのだろうか・・・
時給７５０円、週三回のバイトだけで食べて行けるほど、世の中

甘くない。
「そうね、お兄ちゃんもいい歳だものね。自分でそれくらい分かってるわよね」
「・・・・・・」
そう、この子には妹と弟が一人ずついる。
弟は自衛隊の幹部で、隊の指揮を執っている。
妹は今年二人目の子供を出産。夫は海外赴任しているエリートだ。
どちらもこの子とは違い、父親似だ。この子だけが、あたしに似ている・・・
皮肉なものだ・・・一番似ている長男が・・・家を守るはずの長男が・・・家を腐らせている・・・
「あのね、今まで黙ってたけど、このままじゃいけないって思うから・・・言うわね」
・・・ゴクリ・・・息子が息を呑んだのが分かった・・・
「お兄ちゃん・・いえ、カズヒコ。お母さんね、別に今のままでもいいと思ってるの」
・・・息子は、何を言い出すんだ・・と言う顔をしている・・・
当然だろう。行っている事が真逆だ。
「お父さんが頑張って働いてくれたおかげで、家のローンも払い終わったし、十分な貯金もできた。まだ、お父さん働いてるけど、定年で退職金も出るし、お母さんとお父さん・・それに大きくなった息子一人くらいなら面倒見れそうなのよ。」
息子の顔が落ち着いていくのが見れる。嬉しそうとも悔しそうともとれる、そんな表情だ。
「でね、実を言うと私は、子供たちの中で・・・あなたが一番可愛いのよ・・・」

・・・耳元で囁く・・・

・・・そう、あなたのこどもがほしいくらいに・・・

その瞬間息子は「ごめんなさい！！ごめんなさい！！ごめんなさい！！ごめんなさい！！ごめんなさい！！ごめんなさい！！ごめんなさい！！ごめんなさい！！ごめんなさい！！ごめんなさい！！ごめんなさい！！ごめんなさい！！ごめんなさい！！ごめんなさい！！」

・・・あらやだ・・効果覿面・・・

「ちょっと！！落ち着いておにいちゃん！！冗談よ冗談！！」

そう言っても謝り続ける息子・・・やりすぎたかしら・・・

「もういいわ。わかった、わかったから・・・ね」

しばらくなだめすかし、ようやく落ち着きを取り戻す。

グスングスン

・・・あらやだ、泣いちゃったわ・・・かわい♪

「もういいから、ね。これからの事はゆっくり考えましょ、ね」

息子は「ウン」と言うとのどが渇いたのか、リビングに水を飲みに行ったようだ。

・・・ふう、やりすぎね・・・少し反省・・・でも・・・うふふ・・・

・・・数日後・・・

息子は今までの停滞がウソのように・・・逃げるように・・・

荷物をまとめると、家から出て行った。

今は都内某所で、建築業に従事していて、この間会ったら。別人のようになっていた。

・・・今思うともったいないことをしたと思う・・・

夫が定年退職するまで・・・次は誰で遊ぼうかしら・・・

母から息子へ（後書き）

次回は来週火曜掲載予定。「父から娘へ」の予定です。

父から娘へ

・・・どうしてこうなってしまったのか・・・思えば、俺の人生。安いものだったな・・

「くそ親父!!何してくれてんのよ!!早くどいてよ!」
「そ、そうは言うが!動けないんだよ!」
俺は今、裸の娘にのしかかっていた・・・

「親父邪魔!」
そう、いつものように高校生になる娘に蹴飛ばされ、ソファーから転げ落ちる。
・・グフッ!・・・・（機体名ではない）
そう言って落ちる俺に足を乗せ、シッシッと追い払う娘。
こんなことが、もうずっと続いている・・・
母さんが事故で亡くなり、男手一つでここまで育ててきた。
家事を全て俺が担当し、会社に行き上司頭を下げ、ずっとそうやって可愛い娘のために、頑張ってきた・・・
しかし・・・
「もう限界かもしれない」・・・そう呟いてもしょうがないと思う。
「は?何が限界なのよ!」・・・聞こえてしまったようだ・・
「いや、なんでもないよ。それより、もう遅いし寝なさい」
「偉そうにめーれーすんなっつの」・・・実際偉いと思うが・・・
「そうか。まあ、父さんは寝るよ・・おやすみ」
返事など無く・・・俺は床につこうとする・・
・・・そうだ、テレビの録画予約しなくては・・・
たまにやっている、深夜の麻雀番組・・俺の楽しみを録るのを忘

れるとこだった・・・
そう思い、リビングに行くが・・・誰もいなかった。
・・・ほっと一安心し、録画の予約をする・・・
ああ、そうだ・・ついでにハミガキもしていこう・・
そう思い、洗面所に行く・・・
シャー・・・
娘がシャワーを浴びているようだ・・・
シャカシャカ・・・歯磨きをする・・・シャー
・・完了・・早く寝なくては・・・明日は会議だ・・・
ガチャ・・・あ・・風呂のドアが開き中から娘が出てくる・・・
「キャーーーー!!」
「ぎゃーーー!」
俺と娘の声が被る・・・
「どうしていんのよ!くそ親父!!」
「なんで、でてくるんだ!」
二人で相手のせいにする辺り、さすが親子と言えるだろう・・・
「とっとと出てけ!」
そう言われ、出て行こうとする俺・・しかし・・・
・・・ゲル・・ググ・・(機体名ではない)
娘に何か投げられ、それが鳩尾(みぞおち)にあたり、目を回してしまった・・
そして・・・
「きゃ!きゃああ!!」・・と言う声と・・
ドスン!
という音が・・他人事のように聞こえたのだった・・・

・・・冒頭に戻る・・・
「さっさとどいてよ!!」
そういう娘、だが俺は不覚にも腰を抜かしてしまっていた。
「悪いが、それはできない」
「なんでよ!」・・・もっともな意見だ・・

「それが・・・」そういう俺は・・・このままでいいのだろうか・・そう考える・・
今まで・・こうして娘に人生を捧げてきた・・しかし、顧みられることも無くこうして日々が過ぎてしまっている・・きっと、結婚式にもお情けで呼ばれ。失笑をかうのがオチ、と言うものだろう・・
しかし・・今日、この時を利用すれば・・きっと娘は昔を取り戻し、優しい言葉、温かい態度を取ってくれるようになるのではないか・・・
一瞬でそう考えた俺は・・なんとか説得を試みる事にする・・
「娘よ・・・」
「は？な・・・に・・」
俺の雰囲気が変わったのを感じ取れたのだろう・・おとなしくなる娘・・
「今まで・・・俺はお前を好き放題させてきた・・・」
「・・・」黙ったままこっちを見る娘・・
「それも、俺はおまえの我が侭のほとんどを叶えて来たと思っている」
事実その通りなので・・黙って聞いている・・
「しかしな、もうそれも終わりにしようと思う・・」
娘が、何かに気がついたように・・震え始める・・・
「なぜ・・おれがお前のわがままに付き合ってきたと思う・・なぜ今まで育ててきたと思う・・」
「え・・・まさか・・・いや・・」娘が震える・・何がいやなんだ？・・・
「それはな・・・お前に・・優しくしてもらいたかったからだ！！！」
俺がそう言うと・・・「いや・・いや・・・」そう言って動こうとする娘・・
「今まで、言わなかったが・・・おれは・・お前に・・・こえ「いやあああああ～～～～！！！」」

そう言って思いっきり暴れだす娘・・・蹴られ叩かれ・・蓑虫(みのむし)のようになる俺・・

娘は裸のまま・・部屋に閉じこもりカギをかけてしまった・・中から・・・「警察ですか？」・・とか声が聞こえる・・

・・・結果として俺は、警察に事情聴取をされ・・一晩を留置所で過ごした・・

誤解だ・・ということが分かったときには、もう近所に『娘に手を出そうとした親父』として知れ渡っており・・俺は娘と離れ会社に寝泊りする事になってしまった・・・

・・数年後・・・

娘が結婚することになり、式に呼ばれる事になった・・・

相変わらず顔を合わせてくれない娘。お婿さんが気を遣って娘と二人、部屋に残してくれた。

「・・・まだ怒っているのか・・・・」

「・・・・」娘から言葉は無い・・・

「当然だな・・しかしな・・いや・・弁解の余地もないか・・俺の思いはどうあれ・・結果としてああなってしまった訳だしな・・」

「・・・・」

「すまなかった」そう頭を下げ・・出て行こうとする・・

「・・・・よ」

「え？」

「お互い様って言ったのよ！」

・・・俺はとても驚いた・・・こんあ俺を許してくれたのだ・・・

「ありがとう」そう言って・・部屋を後にする・・・

・・・外は快晴だった・・・娘はこれから幸せな日々が待っているだろう・・・

そう心に想いながら・・・俺は式に出ることをやめ・・式場を後にし・・母さんの所に行ったのだった・・・

父から娘へ（後書き）

アトガキでつ。

あれ？コメデー？・・・オチは？・・・すいません。次回頑張ります！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7354v/

家族更正

2011年10月9日13時44分発行